別紙様式３（高）

令和４年度　県立水海道第一高等学校･附属中学校　学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
１.本年度重点目標の達成状況についての自己評価は妥当か	A　妥当である (B)　おおむね妥当である C　あまり妥当でない D　妥当でない	・中高の目標を連動させ、６年間を見通した目標を設定していることがわかる。それであれば、中学校にも「働き方改革」を入れるべきである。なお、働き方改革は、業務内容の見直しと並行して、DX化による業務軽減等も検討すべきである（例えば、プリントの印刷・配布・回収・評価は、Google Workspace が活用できる)。 ・数年後を目指し、重点目標の文言を中高で統一しても良いのでは。 ・地域社会との連携を通しての生徒の社会的能力を引き出す試みの話に感心した。今後の活動に期待している。
２.学校の具体的目標及び具体的方策の達成状況についての自己評価は妥当か	A　妥当である (B)　おおむね妥当である C　あまり妥当でない D　妥当でない	・各分掌の努力がよくわかる。また資料から、総合的な探究の時間の充実が見とれる。今後も継続してほしい。欲を言えば、じっくり、しっかり探究できる活動を期待する（例えば、街づくり探究を更に発展させる)。その際に、「育成を目指す資質・能力に関する方針」を具現化できるようにカリキュラム・マネージメントをしてほしい。 ・中高の評価基準、規準Ａ～Ｅは統一をした方が良い。
３.学校は次年度への主な課題を把握しているか	(A)　十分把握している B　おおむね把握している C　あまり把握していない D　把握していない	・「育成を目指す資質・能力に関する方針」が、地域貢献に留まらず社会に視野を広げた点は、実態に即していると考える。無論、地域（関連する学習）を軽視するのでない。視野を広げる基盤となるはずである。 ・GIGA スクール構想に伴い、ICT の活用を課題とする教科が多い。クラウドの強みを活かすのであれば、協働とポートフォリオ（振り返り）であろう。単にアクティブラーニングを目指すのでなく、授業のねらいを明確にし、ねらいに向けた効果的な授業でデザインをしてほしい。
４.学校の改善方策への対応は適切か	A　適切である (B)　おおむね適切である C　あまり適切でない D　適切でない	・各種アンケートを確認すると、概ね好評であることがわかる。一方で経年変化がわからない。全ての項目に着目する必要はないが、重点項目の変化は改善方策の具体と共に考察すべきである。なお、この項目の根拠となる資料がわからず、適切なコメントになっていない。

別紙様式３（高）

５．高校と附属中学校の連携は適切か。	A　適切である (B)　おおむね適切である C　あまり適切でない D　適切でない	・中学校の評価が好評であることから、丁寧に取り組んでいることがわかる。中学校の授業の様子を参観することは、教員の良い学びになると考える。 ・次年度以降複数学年が一緒になったときに見えてくる課題にどう対応するか。 ・附属中学生が高校生になったときに、互いに波及されることを期待する。

※　「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。